

ローリスク妊婦の妊娠週数に比して小さい児(胎児発育遅延児)の検出を目的としたスクリーニングツールとしてのカスタマイズ成長曲線およびポピュレーション(母集団)をもとにした成長曲線の比較(2011 issue 12, New)

Citation: Carberry AE, Gordon A, Bond DM, Hyett J, Raynes-Greenow CH, Jeffery HE. Customised versus population-based growth charts as a screening tool for detecting small for gestational age infants in low-risk pregnant women. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2011, Issue 12. Art. No.: CD008549. DOI: 10.1002/14651858.CD008549.pub2.

CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 28 JUL 2011

Clib issue No.; N/U: 2011 Issue 12; New

背景: 胎児発育制限は潜在的に発育能力が乏しい状態と定義されており、主な妊娠合併症の1つとみなされている。このような胎児は、すべてではないがその多くが妊娠週数に比して小さい児(胎児発育遅延児)(SGA)である。SGAは、体重が特定のパーセンタイル値(通常は10パーセンタイル値)を下回る状態と定義されている。SGAは周産期の罹患および死亡リスクが高いという理由から、SGAの特定は重要である。すべての産科医療提供者にとってSGAのスクリーニングは課題となっており、現行の臨床評価法では多くのSGAを検出することができない。大規模な観察研究から、カスタマイズ成長曲線が体質性軽小児と病的軽小児とを区別するのに優れていることが示唆されている。カスタマイズ成長曲線は、母親の身長と体重、民族および経産歴などの生理学的変数を調整している。

目的: 妊婦の胎児発育を検出するためのスクリーニングツールとして、母集団をもとにした成長曲線とカスタマイズ成長曲線を比較することにより、利益および害を評価する。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2011年9月30日)を検索し、既発表ガイドラインを査読したほか、レビュー論文の文献リストを検索した。

選択基準: 妊婦の胎児発育を検出するためのスクリーニングツールとしてカスタマイズ成長曲線と母集団をもとにした成長曲線を比較検討しているランダム化試験、準ランダム化試験またはクラスターランダム化臨床試験。

データ収集と分析: 2名のレビューアが、解析に組み入れるための試験を別々に評価した。

主な結果: 試験の組み入れ基準を満たしているランダム化試験は認められなかった。

レビューアの結論: 現時点ではランダム化試験のエビデンスを入手することができない。確認された検出力の改善がカスタマイズ成長曲線にのみ起因しているのか、あるいは方針変更の効果によるものであるのかを正確に評価するために、今後さらにランダム化試験を行う必要がある。大規模な試験による研究を行い、異なる設定でカスタマイズ成長曲線を用いた場合の利益および害(周産期死亡を含む)を検討する必要があるほか、子宮底の高さと超音波検査による測定値の双方についても調査する必要がある。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日: 2012年4月10日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。